

## ICT活用で確かな学力をつけよう（実践報告）

1 学年・教科 3年 社会科

2 単元名 まちたんけんをしよう

3 実践者（所属）松本 武（住吉小）

### 4 活動を始める前に

#### （1）準備するもの

実物投影機  
プロジェクター  
スクリーン

#### （2）ICT機器やメディアの活用のねらい

全員で同じ地図を見ることにより、どこを見るのかが確実に確認できる。  
実物投影機のズーム機能を使うことにより、学区の全体を見たり、一部分だけを見たりすることができる。

### 5 指導計画

時	児童の活動	指導上の留意点
1 2	まち探検の計画を立て、まち探検に意欲をもつ。	・安全対策のために、水筒・帽子を忘れないように確認する。 ・子どもたちの知っている建物などを使って方位の学習をさせる。
3 4 5 6 7 8	まちを探検して調べ、いろいろな場所の特色が分かる。 1日目・・・北側 2日目・・・西・南側 3日目・・・南・東側	・探検中に方位の確認をして、今自分は学区のどの辺にいるのかを考えながら探検をさせる。 ・途中、主要道路の名前や目印にしていた地図上にある建物や公園の場所を知らせる。
9 10 11	探検で調べたことを大きな地図をみながらまとめて、まちの様子への関心を高める。	・公園・学校など目的ごとに色わけして、見たらすぐに探したい物が見つかる地図を作ることができるように声かけをする。

### 6 活動の流れ

時間	学習内容・指導上の留意点	児童の活動（利用メディア）
	学区の地図を見ながら、まち探検の様子を思い出す。 学区のマットパズルを使い、そのパーツは学校から見てどの方角かを考える。 グループごとにマットパズルのパーツを渡して、グループで考えながら正しい位置にパーツを置いていく。 マットパズルの上に乗りながら、自分の家を見つけて、まわりの友だちの家や学校との位置関係を確認する。	・スクリーンの地図を見ながら、見てきた建物や公園などを思い出す。 （実物投影機・プロジェクター・スクリーン） ・マットパズルを並べて、巨大学区地図を作る。 ・マットパズルの上に乗って、自分の家を探す。

### 7 取り組み後の子ども達の変容や成果

子どもたちは、最後に自分の地図を作った時に、建物や道路など位置を正確に把握することができた。また、友達同士で教え合う姿を見ることができた。

### 8 応用できます！

大きく映して全体で見るという学習時に実物投影機は効果を発揮します。とくに地図の学習などは、一人一人の地図を見ながらだと、口で説明していてもうまく正確な場所を指示することが難しいので、全員で一つの地図が見られる実物投影機を使えば、分かりやすく地図を使った学習ができます。